

令和8年4月8日
校長 辻 勘助

令和8年度 狛江市立狛江第六小学校 学校経営計画

狛江市の教育目標及び、第四期狛江市教育振興基本計画に基づき、保護者・地域の方々の信頼を得て、次世代の中核たる児童が生きる力を身に付け、自己実現するためのよりよい教育の場としていく。また、児童一人一人の可能性を引き出し、伸ばすことを学校経営の重点として教職員が一丸となってこのことに取り組んでいく。

学校経営にあたっての基本方針

- 1 子供たちが自信をもち、登校する学校
 - ・教職員は、子供たち一人一人を尊重し、「できた」「わかった」と喜びを味わえるよう、子供たちの学びに寄り添い、個に応じた教育を行う。
- 2 子供たち、保護者、地域に信頼される学校
 - ・学習環境の整備、けがの未然防止、いじめ・不登校の未然防止・早期発見解決に取り組み、子供たちが安心して、安全に学ぶ楽しさを味わえる学校をつくる。
 - ・学校公開やホームページ等での情報発信、PTA 活動や各種地域行事に積極的に参加し、保護者・地域との信頼関係を深める。
- 3 地域とあゆむ学校
 - ・二中ゾーンとして、狛江第二中学校、狛江第三小学校との連携を深め、目指す児童・生徒像や教育課題を共有し、地域の子供の育成を行う。
 - ・地域や保護者との連携、協働を組織的、継続的に進め、学校運営協議会を基に地域住民等の参画を促進し特色ある学校づくりを推進する。

〈 狛江市教育目標 〉

- 互いの生命と人格・人権を尊重し、地域を愛し社会に貢献する意識の醸成
- 知・徳・体の調和がとれた力をはぐくみ、個性や想像力を伸ばす学校教育の充実
- 生涯にわたり主体的に学ぶことができる学習環境と運動環境の整備と拡充

〈 狛江第六小学校 教育目標 〉

- よく考える子・・・問題発見力、問題解決力、思考力、判断力、表現力を育む教育の推進
- 思いやりのある子・・・豊かな情操と道徳心を育む教育の推進
- 運動を楽しむ子・・・健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現する力を育む教育の推進

〈 二中ゾーンのめざす子供の姿 〉

- 郷土「狛江」を愛する姿
- 互いに感謝の気持ちをもつ姿
- 地域の人へ気持ちよくあいさつできる姿
- 夢や目標をもって、他者と協働しながら前向きに挑戦する姿

☆自主自律 「自ら学び考え、自らを律しつつ、主体的に行動する生徒」

(二中教育目標) から

- ・ 探究的に学ぶ力の育成 自己選択・自己決定・自己調整 する力の育成
自分に最適なものを自分で学ぶ個別最適な学習
- ・ 主体的に行動する力の育成 プロジェクトチームや実行委員会を中心とした児童・生徒
による行事等の立案・計画・運営

1 具体的な方策

(1) 問題発見力、問題解決力、思考力、判断力、表現力を育む教育の推進

① 教科担任制による授業の質の向上

- ・ 高学年で教科担任制を実施することで、教師の教科指導の専門性を高めきめ細かな指導を行うことで児童一人一人の学習内容の理解度定着度の向上を図る。
- ・ 学年すべての学級で均一な授業を行うことで、学年全体の理解度の底上げを図る。
- ・ 中学年・低学年では、状況を見ながら学年内での授業交換を行い、同様に授業の質を高め児童の理解度定着度の向上を図るとともに、高学年での教科担任制への円滑な移行の準備を行う。

② 二中ゾーン・かけはしプロジェクトによる三校連携

- ・ 二中・三小と連携をしながら、探究的な学習について教育課題や指導方法を共有し、ゾーンとして9年間を見越した指導につなげる。
- ・ 三校実施のCSの会での情報交換や各校の研究授業への参加を通して共通理解を進めていく。

③ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得

- ・ 「できた」「わかった」という喜びを味わわせ、次の学習への意欲を高めるために、児童を認め自己肯定感を高める指導を行う。
- ・ 「わからないこと」「間違えること」は、学習の過程で当たり前のこととして、安心して学習に取り組める環境を整える。
- ・ パワーアップカード(仮称)を活用して積極的に学習に取り組める環境を整備し、効率的な学習活動を展開する。

④ ICT 機器を活用した教育活動

- ・ GIGA スクール構想に基づき、日常的に一人一台端末、書画カメラ等を有効活用し、学習意欲の向上を図るとともに探求型学習を推進する。また、双方向型のオン

ライン学習も必要に応じ行っていく。

- ・教科の学習に加え、委員会活動や係活動等においてもタブレット端末を活用していく。あわせて、情報リテラシーや情報モラル等、デジタルシチズンシップ教育を進めていく。

⑤ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業

- ・これまでの校内研究の成果を生かし、発問やワークシートを工夫したり、ペアや少人数での学習の場を設定したりすることで、自分の思いや考えを伝える力を育てる。
- ・問題解決的な学習を意図的に行い、児童が主体的に課題を設定して学習意欲を高め、主体的に学習に取り組み、問題を解決していこうとする態度を育てる。

⑥ 教科横断的なカリキュラムマネジメントによる授業

- ・二中ゾーンとして「地域」をテーマにした学習に取り組む中で、中・高学年は総合的な学習の時間を中心に、「多摩川学習」を推進する。「水辺の楽校」等の地域人材を活用しながら、多摩川の歴史、自然環境、地域との関連について教科横断的に探求する。また、地域の自然や文化を愛する心の育成につなげる。
- ・高学年は図書室やタブレット端末による情報収集等を活用し、移動教室に向けた事前学習や事後学習に取り組む。
- ・地域の農家の方に協力していただき、栽培活動や農業体験等を行うことで、地域の特色を学ぶとともに、食育にも取り組む。

⑦ 指導方法の工夫改善と個に応じた少人数指導の充実

- ・良好な学級集団づくりを基盤として、基本的な学習規律の形成を図るとともに、学習活動の質・量の適正化を図る。
- ・算数において、3・4年生は3学級4分割、5・6年生は市費講師を含め3学級5分割の少人数習熟度別授業を全単元で実施する。また、一人一台端末を活用した**ドリル学習**、東京ベーシックドリルや狛江市算数習熟度別指導の発展教材を計画的に活用し、学習内容の定着を図る。

⑧ グローバルに活躍できる資質・能力の育成

- ・外国語専科教員による外国語・外国語活動の授業を行い、ALTも活用しながら質の高い外国語教育を行う。
- ・6年生がTGGでの校外学習を行い、これまでに学習してきたことを実践する機会を設け、さらなる学習意欲の向上につなげる。
- ・保護者や地域の人材の中で、外国との関わりのある方に協力していただき、国際理解教育に取り組む。

⑨ 適切な評価の実施

- ・「六小評価基準表」を指標として、校内で適正な評価を行う。

(2) 豊かな情操と道徳心を育む教育の推進

① 人権教育の推進

- ・「狛江市子どもの権利条例」に基づき、児童一人一人の人権を尊重するとともに、**全校での人権尊重の意識を高める人権教育を進める。**
- ・道徳教育・人権教育の全体計画に基づき、全教育活動を通して児童の道徳性を養うとともに、人権尊重の理念への理解を深める。

② いじめ・不登校の未然防止と実態に即した対応策

- ・「六小いじめ防止基本方針」に基づき、学校いじめ防止対策委員会を中心に組織的に取り組む。**児童が安心して学校生活を送ることができるために、学校の内外を問わずいじめが行われなくなるよう「いじめゼロ」を合言葉に、「報告・連絡・相談」の徹底による教員間等の情報の共有化と共通理解を図り、組織的にいじめの未然防止・早期発見・早期解決に努める。**
- ・WEB-QU や児童アンケートを活用し、いじめ・不登校の早期発見・早期解決に努める。また、学級集団の実態を把握し、よりよい集団作りを進める。
- ・いじめをしない児童を育成する。児童会等においても啓発活動を行い、「いじめをしない、させない、見過ごさない」集団づくりを行う。
- ・**「学年の担任・副担任全員で学年の児童を育てる」**ことで、**より多くの目で児童の様子を観察しいじめ・不登校の未然防止や早期発見に努める。**また、児童が**SOS**を出しやすい環境づくりにつなげる。

③ 場に応じた礼節による良好な人間関係の構築

- ・年間を通じて自ら進んでする「あいさつ運動」を励行する。また、狛江第二中学校と連携した「あいさつ週間」を設け、あいさつへの意識を高める。

④ 集団活動を通じた社会性の育成

- ・特別活動を計画的に実施し、よりよい学校生活をおくっていかうとする自主的・実践的な態度を育てる。

⑤ 自己の能力、資質や個性の伸長

- ・行事等において、児童によるプロジェクトチームや実行委員を組織し、立案・計画・運営を行う。児童にオーナーシップをもたせることで、主体性を育む。
- ・学校行事にめあてをもって取り組ませ、実施後に自己評価を行い、自らの成長を認識させるとともに次の取り組みに挑戦する意欲・態度を育てる。

⑥ 特別支援教育の推進（特別な支援を要する児童や不登校傾向にある児童への支援）

- ・特別支援校内委員会を中心にスクールカウンセラーや関係機関との連携、「家庭と学校との連携推進事業」等を活用しながら、特別な支援を要する児童や不登校傾向にある児童の支援に対し、組織的に問題の解決を図る。
- ・狛江市発達サポーターを活用し、**支援・配慮を必要とする児童に対して個に応じたフ**

フォローを行い、学習・集団生活に取り組める環境を整える。

- ・スクールカウンセラー、通級指導学級教員、PTA と連携しながら学校だよりやホームページ等を通して、保護者や地域への理解・啓発を図る。また、児童向けに、特別支援教育についての理解教育を行い、相互理解を深める。

⑦ 保護者との連携

- ・保護者と連携し、基本的な生活習慣を確立する。また、ホームページや学校だより等を活用し、学校での様子を伝えるとともに、一人一人の児童の活躍を認め、集団における自己有用感を高める。
- ・学級だよりを配信化することにより、保護者への情報を即時化し、連携に役立てる。

(3) 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現する力を育む教育の推進

① 体力の向上

- ・体育の授業となわとび週間、ペースランニング週間等の連携を図り、児童個々が自己の体力向上を計画的に図れるようにする。発達段階に応じてデジタル機器を有効的に活用していく。
- ・「かけはしプロジェクト」で、狛江第二中学校・狛江第三小学校とともに取り組んできたなわとび学習の系統的な学習を継続して進めていく。

② 生涯スポーツの意識の育成

- ・アスリート派遣事業等を有効活用し、体力向上と合わせて、「運動に親しむ」「運動を楽しむ」生涯スポーツの意識や、様々な種目への興味関心を高める。さらに学校 2020 レガシーと関連付けて、歴史や文化を愛する心の育成につなげる。

③ 健康に対する意識向上

- ・これまでの感染症対策を含め、自身の健康管理や安全に対する意識を継続できるよう、指導を行っていく。
- ・給食指導を中心に食育を行い、健康な食習慣への意識を高める。

(4) 保護者・地域・関係機関との連携、協働の推進

① コミュニティ・スクールの推進

- ・二中ゾーンとして地域三校での連携を高め、地域・保護者と協力しながら特色ある持続可能な学校づくりを進めていく。
- ・狛江第二中学校、狛江第三小学校とは小中連携の日をはじめとする意見交流、授業参観等での交流を児童・生徒・教員間で推進する。
- ・学校生活の様子をホームページや各種便りを活用し積極的に発信する。また、学期に1回の学校公開を実施し、学校での児童の様子を直接見られる機会を設ける。

② PTA 活動や地域行事への参加

- ・いかだレース、ふれあい広場、総合防災訓練、PTA 地域行事に計画的に参加し、保護者・地域との連携を深める。
- ・教育活動への参画、運動会やペースランニング大会、学習発表会等の教育活動に保護

者・地域の方々への協力を要請する中で、学校教育への理解を深めていただき、ともに児童の健全育成を目指す意識を高める。

③ 保育園・幼稚園等との連携によるキャリア教育の推進

- ・近隣保育園・幼稚園とは行事や進学時を中心に、意見交流・情報交換を行う。
- ・キャリア教育の視点に立ち、将来の夢を描かせる取り組みを行うとともにキャリアパスポートを活用して生きる力を育む指導を行う。

(5) 研究・研修の充実

① 校内研究を通じた資質・能力の向上

- ・「教職員にとっては毎年のことであっても、児童にとっては、人生で1回きりの学びの瞬間である」ことを念頭に置いた教育活動を行う。そのために、「できた」「わかった」と喜びを感じ次の学習への意欲をもつことで、児童の成長につながる指導力を身に付ける。
- ・個々の**担任・副担任**が学年担任の意識で学年経営にあたり、**学年全体**の児童理解と指導力の向上に努める。
- ・各学期に一度、他の教員の授業参観をし、相互の授業力向上につなげる。

② キャリア、職層に応じた OJT の推進

- ・日々、相互に切磋琢磨し、「学習指導力」「生活指導力：進路指導力」「外部との連携・折衝力」「学校運営力・組織貢献力」の向上を図る、同時に優れた指導技術や実践事例を教職員に示し指導力向上を図っていく。
- ・キャリアや自己の課題に応じて、東京都教職員研修センター、狛江市立小学校教育研究会、五市合同研修会や研究発表会等に積極的に参加し、自己の力量を高めるとともに、研修成果を他教職員に還元する。
- ・全教職員で若手教員を育てるという意識をもち、日常的にコミュニケーションをとりながら若手教員研修を OJT 担当教員と若手教員が企画、実践する。
- ・「東京都公立学校教員の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」に基づき、キャリアと職層に応じた OJT の目標を設定し、自己申告書の作成、面接を通して進行状況を確認し、指導改善や自己のキャリアの充実を目指す。

③ 教育公務員としての自覚と責任ある職務の遂行

- ・サービス事故防止研修や「ふくむニュースレター」を活用した職員連絡会等での指導、**定期的なサービス事故防止チェックリストの活用**、教職員間の日常的な相互啓発により、サービス事故の根絶を図る。
- ・公簿や個人情報の管理を徹底し、教材費等の私費会計を厳正に取り扱う。
- ・働き方改革を念頭に、職務の効率化を図るとともに、校務分掌の平準化、会議の簡略化、行事の精選を図る。

※ 本経営計画は、実施状況に応じて改善、修正を行う